

第1 序論

1 研究会の目的

本研究会の目的は、「歩くまち・京都」の実現に向け、都心部（御池通・河原町通・四条通・烏丸通に囲まれた地区。以下「対象地区」という。）における交通等の施策を検討・提案することです。

本市では、平成13年1月に策定した基本計画において、「歩いて楽しいまちをつくる」ことを掲げ、基本的方向として「歩いて楽しい「歩くまち・京都」の実現を目指す」こととし、先導的な地区として職住共存地区における推進（p52）、歩くまちをつくる新しい交通政策の推進などを打ち出しています。

そして、これに基づき、職住共存地区における推進については、「あるまち構想」（平成14年6月）を策定して「重点地区」を定め、先導的な取組を推進しています（p64）。

また、歩くまちをつくる新しい交通政策の推進については、「TDM計画」（p69）を策定するとともに、各種の社会実験など、取組を推進しています。

これらの「歩いて楽しい「歩くまち・京都」をつくる」ための取組を更に強力に進めるため、職住共存地区（重点地区）のうち、御池通・河原町通・四条通・烏丸通に囲まれた地区について取り組むべき交通等の施策を検討・提案することが、研究会の目的です。

研究会における検討・提案は、ただちに市の施策方針となるものではありません。住民・事業者・関係機関における、対象地区を歩いて楽しいまちとするための施策の検討に資する目的でなされたものです。

【資料1】(p1) 歩いて楽しいまちづくりとしてのこれまでの取組



四条通（休日午後 4 時台）



三条通（休日午後 4 時台）

2 研究会の構成員

研究会は、市役所の関係部局の部課長級により構成したものです。

職 名	氏 名
座長 総合企画局政策推進室企画部長	上仮屋 尚
副座長 都市計画局都市企画部担当部長	谷口 進
総合企画局政策推進室政策企画課長	鈴木 知史
環境局地球環境政策部地球温暖化対策課長	岡田 憲和
文化市民局市民生活部地域づくり推進課担当課長	中井 浩之
産業観光局商工部商業振興課長	村上 圭子
都市計画局都市企画部都市づくり推進課長	山本 耕治
都市計画局都市企画部都市計画課長	福島 健一
都市計画局都市企画部交通政策課担当課長	山本 幸生
都市計画局都市企画部交通政策課担当課長	北村 信幸
建設局管理部監理検査課担当課長	藤井 俊志
建設局道路部道路管理課長	片岡 稔
建設局道路部道路維持課長	新谷 秀明
建設局道路部放置車両対策課長	澤田 忠明
中京区役所区民部まちづくり推進課長	田口政一郎
下京区役所区民部まちづくり推進課長	中田 健次
交通局企画総務部企画課長	佐伯 康介

【資料 2】(p4) 研究会の要綱

3 研究会の検討経緯

本研究会は、平成 17 年 10 月の設置以来、4 回の研究会を開催し、本報告書を取りまとめました。

検討に当たっては、交通等施策の考察に必要な、交通環境調査、国内・海外事例調査を、シンクタンクの支援のもとに実施しました。

また、適宜、住民・事業者及び学識経験者の意見を聴取し、検討に反映させました。

(1) 研究会の開催

- 第 1 回（平成 17 年 10 月 12 日）
- 第 2 回（平成 17 年 11 月 22 日）
- 第 3 回（平成 18 年 1 月 13 日）
- 第 4 回（平成 18 年 3 月 23 日）

【資料 3】(p6) 研究会の検討テーマ

(2) 交通環境調査の実施

- ・ 交通センサスなどの既存調査について調べたうえで、不足する検討に必要なデータを得る目的で実施しました。
- ・ 自動車抑制の必要性・効果が高いと考えられる幹線道路（四条通・河原町通）及び細街路（三条通・御幸町通・堺町通）を中心に実施しています。
- ・ 実施日：平成 18 年 1 月 26 日（木）、29 日（日）
- ・ 主な内容
 - ・ 幹線道路調査（四条通・河原町通）
交差点方向別交通量調査， 路上駐車状況調査， 公共交通利用状況調査
 - ・ 細街路調査（ 三条通・御幸町通・堺町通のみ）
断面交通量調査， 交差点方向別交通量調査， 沿道出入り交通量調査

【資料 4】(p7) 四条通・河原町通における交通実態調査

【資料 5】(p9) 都心地区の細街路における交通実態調査

【資料 6】(p11) 既存調査の概要

(3) 国内・海外事例調査の実施

- ・ 一般車両を制限して公共交通に限定するトランジットモールについては、今回の研究の中心事項の一つです。
- ・ 国内については、各自治体が社会実験に取り組んでおり、群馬県前橋市が平成 13 年度の実験を経て、14 年 6 月に本施策化しています（歩行者専用道路にコミュニティバスを走らせているもので、延長約 400m です）。
- ・ 海外においては、ドイツのフライブルグ、フランスのストラスプール、オランダ

のアムステルダムなど、40以上の都市がトランジットモールを導入しています。

- ・ 国内については、前橋市のほか、社会実験に取り組んだ合計 55 団体に対し、書面調査を、海外については、シンクタンクにおいて、文献調査を実施しました。

【資料7】(p16) 国内・国外における取組一覧

【資料8】(p17) 国内調査対象一覧

【資料9】(p18) 国内事例集

【資料10】(p22) 特に参考になると考えられる国内事例

【資料11】(p23) 民間時間貸駐車場への対応に係る国内事例

【資料12】(p24) 荷捌きへの対応に係る国内事例

【資料13】(p25) 前橋市コミュニティバス「マイバス」の概要

【資料14】(p32) 海外のトランジットモール事例

(4) 住民・事業者の意見聴取(平成18年1月・2月)

- ・ 中京区及び下京区関係学区自治連合会会長等
- ・ 歩いて暮らせるまちづくり推進会議
- ・ 京都商店連盟
- ・ 京都商店連盟中京東支部
- ・ 四条繁栄会商店街振興組合
- ・ 河原町商店街振興組合
- ・ パレット河原町商店街振興組合
- ・ 京都駐車協会
- ・ 全京都駐車場協会

【資料15】(p44) 住民・事業者等の意見

(5) 学識経験者の意見聴取

- ・ 北村 隆一 京都大学大学院工学研究科教授
- ・ 宗田 好史 京都府立大学人間環境学部助教授
- ・ 学識者会議の開催
第1回
 - ・ 塚口 博司 立命館大学理工学部環境都市系・都市システム工学科教授
 - ・ 三輪 泰司 京都造形芸術大学大学院客員教授，
株式会社地域計画建築研究所 取締役会長
 - ・ 宗田 好史 京都府立大学人間環境学部助教授
- 第2回
 - ・ 青木 真美 同志社大学商学部商学科教授
 - ・ 青山 吉隆 京都大学大学院工学研究科教授
 - ・ 村橋 正武 立命館大学理工学部環境都市系・都市システム工学科教授

【資料16】(p47) 北村教授の意見

【資料17】(p49) 宗田助教授の意見

【資料18】(p51) 学識者会議における意見